

中国語教育学会会報

第9号(通巻34号)

2004年1月27日発行

下記事務局へのご連絡は郵便で

中国語教育学会

東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文理学部中文研究室内

郵便振替口座 00110-1-191152

3月27日(土)に第2回全国大会を開催(1面)

新年度役員選挙を郵便投票で2月に実施(4面)

会則第3条により毎年1回の研究報告大会と総会開催が定められている。今年度大会は会報第8号でお知らせしたように、来る3月27日(土)に前回・前々回と同じく、事務局所在地の日本大学文理学部で開かれる。今回も研究報告を会員から公募した結果、おおむね以下のような日程(ワク組み)が決まった。プログラムの

確定が遅れ、今回の会報に最終案を掲載できなかったが、2月に新年度役員選挙の郵便投票による選挙を実施するので(p.3、p.4を参照)、その際に確定プログラム、出欠調査用紙等を同封してお届けする。3月27日(土)をご予定に入れたいただき、奮ってご参加を願う。会員外の参加も大歓迎である。当日の入会も受け付ける。

中国語教育学会 第2回全国大会(研究報告会・会員総会)ご案内

日時：2004年3月27日(土)午前9時50分～午後5時

会場：日本大学文理学部百周年記念館2階 国際会議場

(所在地：東京都世田谷区桜上水3-25-40、新宿駅から京王線にて約10分、

下高井戸または桜上水下車それぞれ徒歩約10分。後日、交通案内図送付)

日程：9:15 受付開始(参加費¥2,000、懇親会費¥3,000)

9:50 開会式(会長挨拶)

10:00～12:00 研究報告会第1部

報告予定者：平山邦彦、奥水優・島田亜実、高橋弥守彦、
三宅登之。題目等詳細は2月に送付。

12:00～13:00 休憩(昼食、勝手ですが各自お願いします)

※この間に理事会を開催します。

13:00～14:30 研究報告会第2部

報告予定者：竹中佐英子、平井和之、沈国威。題目等詳細
は2月に送付。発表順変更の場合もあります。

14:30～15:20 会員総会

(会務報告・決算報告・予算審議・役員選出・月例会等諸
活動、新事業計画等審議・その他)

15:30～17:00 懇親会(文理学部構内 カフェテリア・チェリーにて)

会費納入について 前号会報(03年11月発行)送付の際、会費未納の会員に納入お願いをしました
が、多数の方から振り込みがありました。まだ納入のない会員には重ねてご協力を呼びかけます。

中国語教育学会第2回理事会 記録

中国語教育学会第2回理事会が、昨秋11月30日(日)に学士会館本館(千代田区神田錦町3-28)で開催された。出欠状況については、19名の理事(他に1名は長期海外滞在中)のうち10名の出席があり、理事会成立の定足数は特に設けていないが、会長を除いても過半数の出席となった。

以下は当日の記録である(会務報告は当日の資料以外にも補った箇所がある)。

報告事項(2003年11月30日現在)

- ・会員数 305名(注:2002年11月の理事会開催時は288名)。

上記の数字には、今年度末退会を申し出た者1名と、一時休会を申し出た者1名を含む。

- ・会費納入状況

今年度分完納者 11月27日現在 216名(70%)。

- ・前回理事会記録以後の活動状況

月例会 本年5月から会員所属の大学に持ち回りで会場設営を依頼している。今後は東京に集中することなく、地方での開催を実現したい。事務局には打診も来ている。

4月 中国語科教育法について 輿水 優

5月 《ミニ・シンポジウム》 発音指導、音声教育に関する諸問題
発音上達法 孫 玄 齡
日本人学生に中国語の発音を教える際の小さな工夫 松本洋子

6月 中国語の強さアクセントの音声的・文法的性質と諸教科書・辞書類における扱い 遠藤光暁

日本人の中国語発音傾向に関する調査 車 麗
《参加者によるディスカッション》 LL・CALL教室をいかに活用するか

7月 中国語教育に関する若干の私見 山田忠司
高等学校における中国語教育の実践について 野間 晃
汉语中級阅读教材构思 白井啓介

10月 法英汉语听课记录 陳 文 正

11月 “好些个同学”について 呂 紅 梅
文法的なカテゴリーとしてのヤリモライー中国語との対照を考えて一高靖

12月 実際の使用頻度に基づく文法項目の提示のしかたについて 三宅登之

会報発行 第4号 2月8日 / 第5号 4月9日 / 第6号 6月3日

第7号 9月10日 / 第8号 11月15日 / 第9号 1月27日

大会と総会の案内号を2月に出せれば、さらに1号が加わる。会報に代わってEメールを利用する提案は今後の課題としたい。

会誌発行 創刊号 03年3月27日発行

会誌は会員配布のほか、内山書店に店頭販売を委託し、秋までに当初委託した30部を完売、さらに20部を追加した(頒価は1600円とした)。また、会長が中国で漢辨を訪問した際、また世界漢語教学学会の常任理事会開催時(03年11月)に各国から参加した常任理事各位に贈呈した。なお、理事への書評依頼は続ける予定。今後、一般会員にも特定のテーマで寄稿を募るなど、特集も考えてはどうか。』

- ・会計報告 今回の理事会には会計監査も出席したが、会計関連の報告は年度末の理事会に提出されるため、会費の納入状況についてのみ報告があった。
- ・大会開催について 大会の会場は、学会発展や会員拡大を考えると、月例会のように持ち回りがよいが、係員の確保等を考慮し、今年度も従来と同じになった。研究報告以外に、授業参観、中国語教育の現状分析に役立つ情報交換も必要。また、地方での二外不要論や学習者減少への対応も考えたい。

協議事項

当日、理事会に先立って開かれた代表理事会からの提案として、①役員選挙と②漢辨との連携の問題について意見を交換し、理事会として後述するような結論に達した。

①役員選挙について

会則によると、現役員の任期は今年度末までであり、来る3月の会員総会で次期役員を選出することになる。会則第8条では、「会長、理事は総会で選出する。選出方法は別に定める。」としている。前回は中国語教育協議会から中国語教育学会に移行を決めた総会で、出席者により投票で会長と理事を別個に選挙した。選出方法については、学会の基盤が確立した段階で内規等により明文化すべきであるが、今回は前回と同様の選挙(会長は単記、理事は定数20名のうち8名の連記投票により12名を選び、のこり8名は投票結果や地域・学校の偏り等を考慮し会長指名で決定)を行う、という原案の提示があった。理事の一部は会長指名制という現行方式は了承されたが、開票の効率や理事の偏在回避等、種々の配慮を加え、今回は6名連記で12名を選ぶこととした。定数ののこりは会長指名となる。会長は直接選挙とせず、投票によって選出された12名の新理事から選ぶこととした。その場合、最高得票を得た者を会長とする案も出たが、総会当日に新理事の予備会合を開き、その協議により互選することとした。したがって、会長指名による理事は8+1=9名となる。新理事による会長選出の状況によっては、直ちに新会長と新事務局に引き継げない場合も考えられ、その場合はしばらく旧事務局が日常業務を執行することとした。以上の方式による投票について、前回は当日来会した会員に投票用紙を交付し、総会までに投票を求め総会中に開票したが、懇親会の終了近くまで開票が長引いてしまった。この点を考慮するとともに、全会員による投票を図るため、今回は事前の郵便投票を実施し、開票結果を総会の審議にかけて、選出を行うこととした。なお、会長経験者等の顧問委嘱につき、総会の議題とする提案があった。

次期役員選挙に関する理事会決定：2月中に事務局から理事選挙のための被選挙人名簿と投票用紙(6名連記)、投票用紙を密封するための封筒、返信用封筒を全会員に郵送し、投票締め切り日後に、現理事若干名による選挙管理委員が開票して、その結果を総会に提出する。総会では新理事の互選による会長候補と合わせて審議の上、役員人事を決定(選出)する。

②中国国家对外漢語教学領導小組辦公室(国家漢辨)との連携について

会報第8号(前号)のリサーチ・レポートでも取り上げたように、外国人に対する中国語教育に関し、国家漢辨の組織が強化され、国として具体的な施策を推進し始めている。学習指導要領にあたる教学大綱の策定、留学生中国語コンテスト(汉语橋)、教科書・参考書コンクール、日本の高校中国語教員を対象とする現地研修等の実施(中国が経費を負担)といった内容は、昨春の大会に来賓で参加された中国駐日大使館教育処の胡志平氏のお話でも聞いたことである。本会が中国語教育に関する研究と普及発展を目的とするからには、今後“国家漢辨”とのつながりを深める必要がある。その場合、漢辨が実施しているHSKの問題を避けることはできない。学会としては、HSKも視野に入れ、中国語の学力測定や学力基準に関するプロジェクトを立ち上げ、日本の中国語教育の立場からHSKに対する要望を取りまとめ(前号に関連記事あり)、さらには標準テキストの試作等に向け、日本の教学大綱策定をも目標に、積極的に活動すべきと考える。そのため、学会として「学力基準プロジェクト」(仮称)といった小委員会を発足させることとし、理事会の推挙によって奥水会長がその座長となり、今次大会前にも委員会の発足を図ることになった。

学会誌第2号内容紹介

事務局では学会誌《中国語教育》第2号が3月27日の大会当日に配布できるよう、編集作業を進めている。前号会報で原稿募集のご案内をした結果、締め切り日までに14篇が集まった。年末から年始にかけて理事若干名(1篇あたり3名)に査読をお願いし、その結果10篇を掲載することになった。応募原稿は中国語教育、中国語学に関する研究論文より、中国語教育の現場での実践報告、調査報告の類が多かった。編集方針として、前回大会や月例会における報告はできるだけ掲載することとした。なお、投稿規定をはるかに超える字数のため不採用の論文があり、残念であった。理事有志に委嘱の書評原稿が加わり、第2号の内容は以下のようになる。

古川典代 ソフトアプローチの中国語教育法 ——歌や映画・ドラマなどを素材として

車麗 日本語話者の中国語発音傾向に関する調査 ——子音と母音の関連性から

中西千香 発話の対象を引き出す介詞(前置詞)について

藤井玲子 中国語初級学習者の可能表現の習得に関する縦断研究と誤用分析

周静賢 该用“停”还是“停止”

劉愛群 “构造化输入”在日本汉语初级阶段教学中的应用 ——从否定词“不”和“没”的习得到教学活动设计

森宏子 時間副詞“刚”の意味と機能

神道美映子 公立学校における中国渡日生の母語保持のための中国語教育

中山時子・劉嘉惠 日中両国人教師による同時指導の試み ——中国語表現法について

陳文正 法国英国汉语课听课记录

(以上に掲載予定順)

次期役員選挙の投票について

p. 3掲載の理事会記録協議事項に記載の理事会決定のように、次期役員選挙は総会当日に行わず、事前に郵便投票を行うことになりました。

遅くとも2月末までに各会員あて、理事選挙のための被選挙人名簿と投票用紙(6名連記)、投票用紙を密封するための封筒、返信用封筒等を郵送しますので、投票締め切り日までに、事務局に投票用紙の密封された封筒をご返送ください。なお、中国語教育学会会則第8条に、「役員は就任時に満68歳を超えてはならない。」と規定していますので、被選挙人名簿作成時に該当する会員をすべてマークすべきなのですが、事務局では会員の年齢を把握できませんので、確認し得るもの以外は名簿に残ってしまう可能性があります。やむを得ない措置として、選出された方が年齢制限にかかる場合、自己申告等によって、得票順の繰り上げ選出も生じます。なお、理事若干名に選挙管理委員を委嘱し、幹事、会計監査等の方々に選挙関連事務を担当していただく予定です。

◆◆事務局日より◆◆大会における研究報告を申し込まれた方々との連絡に手間取り、今回の会報に題目等の詳細を掲載できなかった。レジュメの受け渡しに問題があったためだが、事務局の不手際をおわびする◆◆確定したプログラムと出欠調査用紙は左記の投票用紙等を郵送の際に同封する。別送の方がわかりやすいと思うが、郵便料節約のためとお許し願う◆◆3月末は学会シーズンとは言えないが、全国大会へ多数のご参加を望んでいる。お天気次第だが、会場周辺は桜の名所で、当日が土曜のため花見客が道路をふさぐかも知れない◆◆年末に世界漢語教学学会の常任理事会が上海で開かれ、日本からは奥水を含め3名が参加した。会則改正が主たる議題だが、漢辨の業務指導を受ける、との原案に議論が沸いた。